



幼児からお年寄りまで、多くの人が列をなしていた(いわて生協)。

# 「“移動店舗”が来てくれて、本当に助かっています」

## いわて生協、みやぎ生協、コープふくしま

東日本大震災から1年半が過ぎたが、被災地でのくらしの復興は道半ば。中でも、仮設住宅に暮らす人たちにとって、「買い物」の不便さは深刻な問題だ。このような状況に、被災地生協では「移動店舗」の運営を行ない、くらしのサポートと、新たなコミュニティづくりに取り組んでいる。

### 多くの人が待ちわびる移動店舗

「こんにちは、こちらは、いわて生協の移動店舗『にこちゃん号』です」というアナウンスとともに、軽快な音楽を流しながら移動店舗が姿を現すと、「待ってました」とばかりに、多くの住民が集まってきた。中には、「にこちゃん号」の到着を、外に出て待っている人の姿も見える。いわて生協の職員たちは、「今、準備しますね」と話しながら、手際よく開店の準備を進めていく。「にこちゃん号」は、今年6月18日に、岩手県宮古市内で巡回をスタート。点在する仮設住宅17カ所(680戸)を北(月・水・金)と南(火・木・土)の2コースに分けて回っている。

東日本大震災で、岩手、宮城、福島



「何にする?」 どのお菓子を買おうか迷っている女の子と話をする移動店舗職員(コープふくしま)。

の沿岸部は、甚大な被害を受けた。多くの人が、まだまだ仮設住宅で暮らしているが、その近くには店舗がほとんどなく、不便なくらしを強いられている。特に、高齢者が多い仮設住宅では、買い物の手段がないことが大きな問題となっている。こうした状況を打開する一案として、いわて生協では移動店舗「にこちゃん号」1台、みやぎ生協では、同「せいきょう便」2台、コープふくしまでは、同「せいきょう便」1台を導入している(12年9月現在)。

### 「ふれあいの場づくり」も大切な役割の一つ

いわて生協・常務理事の阿部慎二さんは、コース設定について、



いわて生協「にこちゃん号」。



みやぎ生協「せいきょう便」。



コープふくしま「せいきょう便」。

「社会福祉協議会の方々や自治会長さんたち、組合員さんからそれぞれ情報をいただき、コースを組み立てました。復興に向けて頑張っている、被災した地域事業者の仮設店舗がある場所は避けて設定しています」と、地域復興への配慮を話してくれた。

さらに、仮設住宅の住民とその地域に昔から住んでいる人との交流が生まれることを願って、「にこちゃん号」の駐車場所を選んだという。停車場近くに「仮設住宅には（他企業の）移動店舗も来ていますが、私たち地域住民は仮設住宅にはなかなか入って行きづらんです。ですから、みんなが利用できる場所に来てくれるのはありがたいです」と話していた。

この「ふれあいの場づくり」というのは、移動店舗のキーワードでもある。コープふくしま・店舗部タスクリーダーの藤田良二さんは、

「『せいきょう便』が、決まった曜日・時間に訪れることで、その場所に『人と人のコミュニケーション』が生まれています。例えば、『どうしてた？』『あら、久しぶり！』といった会話や、中には、『あそこのおばあちゃん、耳が遠いのよね』と言って、わざわざ『せいきょう便、来たよ』と呼びに行く人もいるのです。仮設住宅では個々が孤立しがちだと聞きますが、『せいきょう便』が来るときに会える人がいる——。コミュニケーションの場をつくることは、生協ができる復興支援の一つの力たちかもしれません」と話してくれた。

また、住民同士だけでなく、移動店舗の職員と住民とのふれあいが、職員にとっても、利用者にとっても、貴重な時間となっている。みやぎ生協・移動店舗担当の森照行さんは、

「『せいきょう便』は、店舗よりも組合員さんとコミュニケーションをとりやすく、そこでニーズをつかむようにし

ています」と話す。ボランティアで応援に入っていたいわて生協・産直事業推進事務局の末藤雅也さんも、「組合員さんも、同じ時間、同じ場所に来る、同じスタッフに親しみを覚え、毎回話し掛けてきてくださる方もいます。また、組合員さんが買い物をされ、喜んでくださっている様子を間近で見ると、お役に立っていることを実感します」と話していた。

## 広がる移動店舗利用

みやぎ生協の「せいきょう便」は、11年8月のスタート時は1台で、石巻市および東松島町を巡回していたが、今年3月に2台目を導入。気仙沼市・南三陸町の仮設住宅も巡回できるようになった。

11年11月にスタートしたコープふくしまの「せいきょう便」でも、スタート当時、福島市全域の仮設住宅と二本松市の一部地域を回っていたが、12年7月には、国見町の一部仮設住宅への運行も加わった。

いわて生協も、9月現在進行中の「にこちゃん号」1台だけでは、広い被災地をカバーすることができないため、最低6台の購入を検討しており、その準備も始まっている（囲み記事参照）。いわて生協の阿部常務は、「『にこちゃん号』は、一時的な存在です。最終目的は被災地の皆さんが以前のくらしを取り戻すこと。『にこちゃん号』が役割を終える日が1日も早く来ることを願っています」と、話してくれた。

## 「にこちゃん号」購入の募金実施中です (いわて生協 11月末まで)

宮古市での移動店舗の運営が始まりましたが、他の被災地域からも運行開始への切実な要望の声がたくさん寄せられています。沿岸部の7市町村に点在する315カ所の仮設住宅や買い物に不便な地域を回るには、最低でも6台は必要です。そこで、1台1,200万円を目標に募金を実施しています。

連絡先は、いわて生協・組織本部管掌常勤理事の金子成子さん（019-603-8299）まで。



募金の贈呈式を行なう、大阪いずみ市民生協。

※ 2台目は10月24日より釜石・大槌地域でスタート。3台目は、11月16日より陸前高田・大船渡地域でスタート予定。